

## 第 38 回庭野平和賞受賞記念講演

### 『信心が会おう遠く遙かな地』（仮訳）

台湾 昭慧法師

この度は第 38 回庭野平和賞受賞の栄誉を賜り、心より感謝申し上げます。

はじめに庭野平和財団に対し、とりわけ創設者の庭野日敬開祖さまに対し、心より感謝の意と敬意を表したいと存じます。庭野開祖さまは壮大なビジョンと宗教的精神を基盤に、宗派の枠を超えた力強い平和活動を牽引されました。庭野平和財団はまさにその盤石な拠点として活動しておられます。財団理事長の庭野統弘博士、関係者の皆さま、そして受賞者の評価・選考に真摯に取り組まれている平和賞委員会の先生方——皆さまは毎年の受賞者の発表と贈呈式を通して、平和活動に身を投じている人々に勇気を与え、同時に長年にわたりその目的である平和活動の支援を進めてこられました。

信仰者にとって自分の宗教こそが最高の教えであると考えるのは自然なことであり、それが宗教間対話を容易ならざるものにしてきました。その中で信仰者による宗教や宗派の枠を超えた活動を可能にするためには、宗教指導者や専門家たちが理性的に自己の宗教の理論的根拠に立ち戻り、我が身を省みることが必要です。そうすることで仏教を含むあらゆる宗教の教理を包摂する多元的な（少なくとも包括的な）システムの構築が可能になるのです。

さらに、宗教の枠を超えようと望む心理的基盤を形成するためには、私たち宗教者が交流や相互協力を重ねるなかで自然に純粋な友情を育み、ともに大きな目標に向けて活動することが大切です。

宗教が果たす使命は個人の悟りや救済の範囲を超え、世界平和に向けた運動にもつながり得るものです。

しかし、宗教、宗派、性別、社会的地位、人種、国籍の違いを超え、さらには種の違いを超えて「すべては自分の家族」と受け止められる想像力や寛容性が欠如していると、煽情的な言葉に直面したとき、人間の理性と良心はその強大な力の前に屈し麻痺してしまうかもしれません。そして、もし宗教指導者が信者を正道から逸脱させてしまうようなことになれば、宗教は世界平和への障害と化してしまいます。

宗教を騙るテロリストの中には、聖典の言葉を前後の文脈を無視して引用し悪用するこ

とで、自分の行為を正当化している人たちがいます。そうすることで、彼らは大量殺戮を扇動し、他の人種、階級、宗教の人々だけでなく、宗派の異なる同じ宗教の信者までも迫害の対象としているのです。彼らの残虐行為によって、これまでに多くの血や涙が流されています。

また、宗教界にも聖典を誤用することで女性は男性よりも劣った存在であるという主張を正当化している人たちがいます。こうした女性に対する差別と抑圧は、不幸にも人間の倫理体系の発展向上を妨げる結果をもたらしています。なぜなら男女の優劣を説く教義を厳格に守ろうとする態度は、女性が聖職に就くことを妨げ、その影響は女性信者にとどまらず組織全体に及ぶことになるからです。こうした偏狭な視点は、傲慢さの裏にある劣等感から生じていることが多く、社会全体の発展を妨げるだけでなく、平等や正義という社会の価値観に反するものです。

同様に、宗教界には聖典を悪用し同性愛者への差別を正当化している巨大集団もいくつか存在しています。彼らの中には、同性愛者に「治療」を強制するなど、冷酷な手段で精神的苦痛を与えている人たちや、民主主義を悪用して「言論の自由」を標榜し、同性愛者に対し言葉の暴力を続けている人たちがいます。さらには同性愛者の権利剥奪を目的に、ソーシャルメディアを武器に虚偽の非難・中傷を続けている人たちも存在します。彼らの敵意の矛先は同性愛者にとどまらず、その他の性的マイノリティーの人々にも向けられています。

さらに、動物に対し不当な使役や屠殺を行ったり、贈答品、賞品、実験台として扱うことで、暗に他の動物に対する人間の優位を主張する人たちも存在します。生物の種に関するこうした考え方は、無数の動物たちに苦しみを与えているのです。

宗教、宗派、性別、社会的地位、人種、国籍、そして種の違いを超えたものの見方や考え方は、世界平和の重要な礎であります。庭野平和財団は世界平和に向けて献身され、日本の社会はそうした財団の活動を評価し応援しておられます。庭野平和財団の理事長と選考委員の皆さま、スタッフの皆さま、さらには財団のビジョンを応援されている日本国民の皆さまに対し、心より感謝の意を表したいと存じます。

また、この場をお借りして INEB（仏教者国際連帯会議）の創設者でありタイの民主化運動の草分けであるスラック・シワラック師に対し、心より敬意と感謝の意を表したいと存じます。仏道修行と民主化運動の両面において、私は常にスラック師を模範にさせて頂いてまいりました。スラック師の強靱かつ誠実な知識人としてのお姿に、「富貴も淫する能わず、貧賤も移す能わず、威武も屈する能わず」（地位や財貨に心を乱すことなく、貧しくても挫折せず、権力にも武力にも屈しない）という中国の故事の一節が思い出されます。私はスラック師の後輩の一人として、日々あらゆる面で師から力強い支えを頂いていることに心より感謝申し上げます。

スラック師が創設した INEB には、世界中から社会参加仏教の志を共有する仏道の実践者が結集しています。オンラインと実際に顔を合わせた活動の両面を通して宗教協力と相互支援の取り組みを重ねた結果、いま、あらゆる衆生の苦の滅除に向けてひとすじの希望の光が見えてまいりました。

また、ここで十六年前に遷化したわが師、印順法師に向け、深甚なる敬意と感謝の意を表したいと存じます。印順法師が説かれた「人間佛教」の哲理は宗教や宗派の壁を超え、仏さまの本願に通じるものであります。また、印順法師は仏道修行者が禅定で得た智慧を用いて、人にやさしく、勇敢に、そして常に先を見ながら菩薩の心で前に向かって歩みを進めていくことを望んでおられました。菩薩の心があれば、私たちは社会に向けて関心を広げ、苦しんでいる人々に手を差し伸べることができます。印順法師の教えは、私に伝統的な仏教の枠を超えて考える力を与えてくださり、常にあらゆる生命を敬い守り抜く行動に導いてくださいました。感性と理性の両面において、私の利他行の源泉は印順法師の教えの中にあるのです。

さらに、ともに「人間佛教」を実践する INEB の皆さま、ならびに海峡を越えた地で活動を続けている善友の皆さまに向けて、心から感謝の意をお伝えしたいと存じます。キリスト教と同様に仏教の中にもさまざまな考え方の違いが存在します。内面の修行や儀礼に惹かれる人もいれば、社会活動に傾斜する人もいます。そのなかで、社会問題に心を向け、苦しんでいる人々のために行動を起こすことが、しばしばいわゆる「正道」から外れた行為と見なされていることも事実です。宗教や宗派の違いを乗り越えようとする考え方は、強力な反対や継続的な攻撃の対象になるのです。しかし、どのような困難にも社会参加仏教や「人間佛教」を進める勇士たちの心が揺らぐことはありません。私たちは世界を浄土にするビジョンを共有し、その実現を目標とすることで心をひとつにし、世界の人々もまた仏教を認め賞賛してくださっています。

過去に庭野平和賞を受賞されたスラック・シワラック師とポンニョン師はお二人とも「人間佛教」の支持者であり、中国語圏からの受賞者である趙樸初師と證巖法師、そして私の三人は「人間佛教」の支持者であると同時に実践者でもあります。このことは単なる偶然ではなく歴史の流れの中に位置するものであり、また庭野平和賞委員会からこのような最高の評価を頂いたことは、仏教の利他行が持つ力強さの証明でもあります。それゆえ私は今回の受賞の栄誉を、「人間佛教」と社会参加仏教の同志である善友の皆さまと分かち合うべきものと考えております。

證巖法師は国際的な災害支援に向け数千万人の有志をリードして宗教や文化の枠を超えた大事業を推進され、2007年に庭野平和賞を受賞されました。證巖法師と私は、台湾で得度をした尼僧です。私たちの受賞は、庭野平和賞委員会のメンバーが公正で先見力を具え

ておられることの証左であります。女性には世界を平和にする力があり、宗教にとって大切な存在であることを認めてくださっているのです。宗教を持つすべての女性を代表し、長い間差別に苦しんできた私たちを励まし、力を授けてくださっている皆さまに感謝申し上げます。

あらゆる人々の苦を除くために力を尽くし、人々の心が優しくなることを願い社会の向上と世界平和に向けて努力を重ねることは、仏教の言葉で言えばすべて心の精進であります。それは慈善行為であろうと、災害支援であろうと、社会活動であろうと、どのような形であってもかまいません。金剛経には「以無我、無人、無衆生、無壽者修一切善法、即得阿耨多羅三藐三菩提」という一節があります。その意味は、自我意識を超え、良い行為をした時も相手からの見返りや他人からの賞賛を求めたり、来世に果報を期待したりせず、純粹無垢な心で行なった善行はすべて無上の悟りに至る修行であるということです。ここでいう「善法」とは、心魂の浄化と超越から生まれる行ないのことを指します。

こうした廣大無辺な心をもつていれば、宗教の違いを超えあらゆる善に共通する源泉を正しく認識することが可能になり、その一方で多様な宗教の言語、表現、象徴を尊重できるようになります。他宗教に敬意を払う行為は単なる礼儀ではなく、真の理解と善意の表明なのです。

近代中国の新儒家の学者である唐君毅氏は、相互理解について「遠く遙かな地の信心の出会い」と詩情に富んだ表現をしています。そうした出会いはきっと驚きと美に満ち溢れていることでしょう。私はこの言葉を胸に、すべての人の崇高な心に向けて祝福の言葉をお贈りしたいと思います。

最後に台湾の社会運動を率いた先人と同胞の皆さま、佛教弘誓學院と自然保護協会で共に修行する同志、教員、同僚、学生の皆さま、玄奘大学の理事および同僚の皆さま、この贈呈式の準備のために多くの時間を費やしてくださった庭野平和財団と大愛テレビの皆さまに対し、心より感謝申し上げます。建物は一本の柱では造れないとの言葉のとおり、皆さまのご支援がなければ、私の理想は夢想のままで終わっています。私たちが続けてきたすべての努力を代表して、私はこの賞をお受けいたします。第38回庭野平和賞は、私たち全員に与えて頂いた栄誉なのです。